

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2015年7月30日

報告書名：平成27年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成27年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2015年7月30日

事業名	帰還準備促進のためのコミュニティ図書館サービス事業（第2期） Community library service project for promoting a return preparation (The second year)	
事業対象地	タイ国境 9ヶ所の難民キャンプ	
事業期間	事業期間：2014年4月1日～2015年月3月31日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム	
総支出・返還金	総支出：37,935,519円（返還額：102,697円）	
プロジェクト目標および、その達成度	<p>「コミュニティ図書館サービスにおいて、難民の本国帰還を想定した将来の選択に必要な情報に主体的にアクセスできる仕組みを作る」ことを目的に、本事業を実施した。事業第2期は、タイ側のミャンマー難民キャンプ全9ヶ所を対象とし、公共図書館の一般的機能である（1）情報の提供、（2）情報を活用する能力を高めるための学習機会の提供、さらにそれらを担う（3）人材育成に主眼を置いて事業を実施する。なお、事業第2期では、第1期同様、世代によるニーズの違いを考慮しつつも、難民キャンプの現在の重要な課題である、「難民による情報への主体的なアクセス」という観点から、事業の構成を見直した。</p> <p>事業第2期を通して、コミュニティ図書館の情報提供や学習機会提供の機能について、難民キャンプ内の住民や学校教員、学生の理解が進み、必要な情報や学習参考図書を取得するために、主体的にコミュニティ図書館を利用するようになり、さらに受け入れ側を担う図書館関係者も積極的に情報や図書を提供できるようになった。</p>	
実施内容 概要	1. 7ヶ所の難民キャンプ、21館のコミュニティ図書館を中心に、難民の本国帰還を想定した将来の選択に必要な情報が提供される。 <活動> 1-1. 本国に関する図書の購入・配架 1-2. PCによるデジタル情報検索サービスの実施 1-3. 他のステークホルダーと協働した「コミュニティ情報掲示板」の更新 1-4. 配架された図書の精査、PCの設置、図書館の小規模修繕、レイアウトの見直し	裨益者： ・18歳以上の図書館利用者：延べ164,454人 ・PC利用者：延べ3,497人
	2. 9ヶ所の難民キャンプにおいて、難民の情報収集、活用能力を高めるために図書を利用した学習機会が提供される。 <活動>	裨益者： ・18歳以下の図書館利用者：延べ268,474人 ・移動図書館利用学校：

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2015年7月30日

報告書名：平成27年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	<p>2-1. 絵本の購入・配架 2-2. 参考図書の購入・配布 2-3. 学校教育機関に対する移動図書箱の貸出と活用 2-4. 読書推進公演と年中行事の開催 2-5. カレン語の絵本、カレン語教科書・教師用ガイドの印刷・配布</p>	最大90校（148校中）
	<p>3. 9ヶ所の難民キャンプにおいて、情報や学習機会を広げるための人材育成を実施する。 &lt;活動&gt; 3-1. 図書館関係者向けの情報管理研修の実施（年1回、7難民キャンプ） 3-2. 図書館担当、図書館員向け図書館サービス研修の実施（年1回、7難民キャンプ） 3-3. 図書館青年ボランティア向けの読書推進・情報伝達研修の実施（年2回、7難民キャンプ） 3-4. カレン系難民キャンプにおける教員トレーナー、教員向けの図書情報活用研修の実施（年1回、7難民キャンプ） 3-5. カレニー系難民キャンプにおける教員トレーナー、教員向けの図書情報活用研修の実施（年1回、2難民キャンプ） 3-6. 図書館モニタリングを含む計画会議、四半期会議、年次会議の実施</p>	裨益者： ・研修会参加者：803人 （教育関係者、図書館委員会、教員、ボランティア、図書館担当、図書館員など） ・会議参加者：967人
成果	<p>&lt;コンポーネント1&gt; <u>図書、PCやコミュニティ情報掲示板を通して、本国に関する情報を含めて様々な情報を得られるようになった。</u> 難民キャンプ内の住民が図書、PCやコミュニティ情報掲示板を通して、本国に関する情報を含めて様々な情報を得られるようになった。図書については、2014年12月からは、質及び量共にニーズに応じたミャンマーにおいて新聞・雑誌・一般教養書を購入・配架を開始したことにより、住民が以前よりも多くの情報を入手できるようになったという高い評価を得ている。また、PCが設置されたことにより、入手できる情報量が格段に増えたことは、図書館の重要な役割の一つである情報提供の役割を果たしたと考える。副次的な効果としては、事業第1期以上に図書館の情報提供機能が関係団体の間での認識が高まり、主に情報共有センターがない難民キャンプにおいては、UNHCRや他団体でもコミュニティ図書館の利用を勧めるようになった点が挙げられる。</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2015年7月30日

報告書名：平成27年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	<p>&lt;コンポーネント2&gt;</p> <p><b><u>難民キャンプで図書を利用した学習機会が増えた。</u></b></p> <p>事業第1期から図書館と保育所及び小学校の連携は強かったが、第2期において、カレン語やビルマ語の翻訳シールを貼り付けたタイ語の絵本や出版絵本が移動図書館活動を通して学校に届けられ授業で活用された（保育所では読み聞かせがカリキュラムに含まれている）。移動図書館活動以外にも、図書館に近い所に位置する学校の教員は学生を連れて図書館へ訪問する機会も設け、学生の図書利用が進んでいる。1学年と2学年向けのカレン語教科書の印刷と配布は、低学年の子どもたちの識字教育の機会を増やすことに貢献している。事業第1期における課題となっていた、図書館と中学校・高等学校・ポスト高等学校との連携は、事業第2期で大きく改善した。難民キャンプの教育部会や学校からのリクエストを受けて辞書や各科目の学習参考書をミャンマー国内から購入し配架したことは、教員や学生の日々の授業や自主学習に役立つと評価を得ている。事業第1期分も含め、学習参考書の蔵書数が増えたことにより、移動図書館活動を利用する学校数も増え、さらに図書館を訪問する教員数や学生数も増えてきている。さらに、読書推進イベントを通して、学生だけでなく彼らの保護者や少数民族の人々にも図書館の機能・役割や図書の紹介をすることができたことは、図書館活動を広く周知することができ、より多くの子どもたちに学習機会を提供することにも繋がった。</p> <p>&lt;コンポーネント3&gt;</p> <p><b><u>研修に参加した図書館関係者や学校関係者は、図書館の機能や図書館活動に関する知識やスキルを習得することができた。</u></b></p> <p>計画した活動を全て実施し、研修に参加した図書館関係者や学校関係者は、図書館の機能や図書館活動に関する知識やスキルを習得することができた。これらの知識やスキルは、通常の図書館活動、読書推進を目的とした公演、移動図書館活動などに活用されている。一方で、研修を受けた図書館関係スタッフや教員が、第三国定住や給与額等の理由から離職する事例も多く見られた。移転された知識やスキルの定着は、難民キャンプで活動する全てのNGOが抱える課題でもある。この課題に対して弊会では、教育部会の協力を得て、活動の中心的役割を担う図書館担当スタッフを図書館で長年働いているスタッフから採用するようにし、新しい図書館員をサポートする体制を構築した。これは図書館活動の実践を考慮すると大きな効果があった。</p> <p>難民キャンプの学校では、1年で半数の教員が入れ替わることもある。学校教員の異動に関しては、弊会が直接関与できないものの、教育関連の会議に参加し、研修参加者だけではなく、学校の校長や教員と協力できる関係を築いていきたいと考えている</p>
課題と対応策	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>難民キャンプ全体の課題でもあるが、研修を受けた教育関係者が第三国定住や給与</p>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：タイ

日付：2015年7月30日

報告書名：平成27年 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	<p>額等の理由から離職する例が多くあり、移転された知識やスキルの定着が難しい上、新人スタッフが多い中で、活動の質を維持することが難しい。</p> <p>&lt;対応策&gt;</p> <p>図書館活動の中心的役割を担う図書館担当スタッフを、図書館で長年働いている図書館員から採用するようにし、新人図書館員を知識、技術面でサポートする体制を構築した。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------